

# 専門医の在り方に関する検討会

一関市国保藤沢病院

佐藤元美

# 時間も限られているので結論から

- 医療過疎地では総合医中心の病院運営は適している **継続性、満足度、経営**
- 住民と交流しながら、地域に必要な医療を育てていく **適合性**
- 高齢化社会では外来-病棟-施設-在宅を途切れなく対応する必要がある **連携、垂直統合**
- 研修医を住民とともに育てることで、自分たちの地域に必要な医師を育てたい **生殖性**

# 感じる違和感

- 急性期の医療からの視点に偏った供給側の都合による医療の切り分け、専門化
- 診療科の偏在や地域偏在に責任を持たない供給側の自律性
- 急激に変化する人口構成にスピード感を持って対応できるか

# 方法論

- 問題の分析よりも力を合わせて解決法を探る
- 医療側の都合よりも現実の地域と住民に役立つことを優先する

# 厳しい医療過疎は前提条件

- 岩手の田舎の医療過疎は50年間続いている
- 藤沢病院のある二次医療圏では病院常勤医のいない診療科が増加している
  - 眼科、耳鼻科、呼吸器内科(1名のみ)、リウマチ科、血液内科、呼吸器外科、心臓血管外科など
- 隣の県立千厩病院(約200床)は常勤内科医が1名である

# 藤沢病院の歴史

- 昭和43年 県立藤沢病院が廃院
- 昭和57年 特別養護老人ホームと国保診療所で藤沢町福祉医療センター設立
- 平成 5年 国保藤沢町民病院創設
- 平成 8年 老健と在宅介護支援センター
- 平成11年 訪問看護ステーション
- 平成15年 痴呆性老人グループホーム
- 平成18年 自治体立優良病院総務大臣表彰
- 平成23年 一関市国保藤沢病院に名称変更
- 平成23年 新しい医療のかたち賞受賞

# 藤沢病院と関連施設

- 病院 一般病床54床
- 老人保健施設 老健ふじさわ 60床
- 特別養護老人ホーム 光栄荘87+15
- デイサービスセンター
- グループホームやまばと
- 訪問看護ステーション
- 指定居宅介護支援事業所



# 病院理念「忘己利他」

- 自治医大初代学長  
中尾喜久先生から書いていただいた
- 病院職員の名札に
- 医療の本質
- 最澄が朝廷に提出した  
山家学生式に由来する



悪事向己 好事与他 忘己利他 慈悲之極

悪事(あくじ)を己(おのれ)に向(むか)え、好事(こうじ)を他に与え、己(おのれ)を忘れて他を利(り)するは、慈悲(じひ)の極(きわ)みなり

# 藤沢病院診療体制

- 医師
  - 内科
    - 佐藤元美(自治医大岩手県)
    - 的場 俊(自治医大高知県、前栲原病院長)
    - 高木史江(金沢大学、天理、自治医大、東大国際保健、JICAニカラグアで10年)
    - 千葉 修(岩手医大脳外科)
    - 鈴木かおり(名古屋市大医、放射線科専門医)
  - 外科
    - 椎名良直(自治医大千葉県)
  - 整形外科
    - 高橋幸洋(岩手医大整形外科)
- 非常勤
  - 自治医大精神科、一関病院整形外科など

# 藤沢病院診療の特徴-1

- 地域医療にしめる大きな役割  
背景9千で唯一の医療機関  
町民死亡の8割を担当(以前は8割町外死亡)  
土曜日・平日午後も診療
- 実習・見学の受け入れ(ニカラグア, 中米, 自治医大,  
岩手医大など)
- 電子カルテ実装(平成14年)
- 日本医療機能評価機構の認定(平成23年)
- 総合診療方式

# 藤沢病院診療の特徴-2

- 内科
  - 総合診療方式
  - 緩やかな主治医制
  - 午前3-4診、午後2-3診で午後診療を充実
  - 土曜日も診療
- 訪問診療
  - 町内外(一部県外)で100-150世帯
  - 在宅の看取りは1-2割程度、最近増加傾向
- 施設
  - 外科長が担当
  - 急変時は当直医が対応

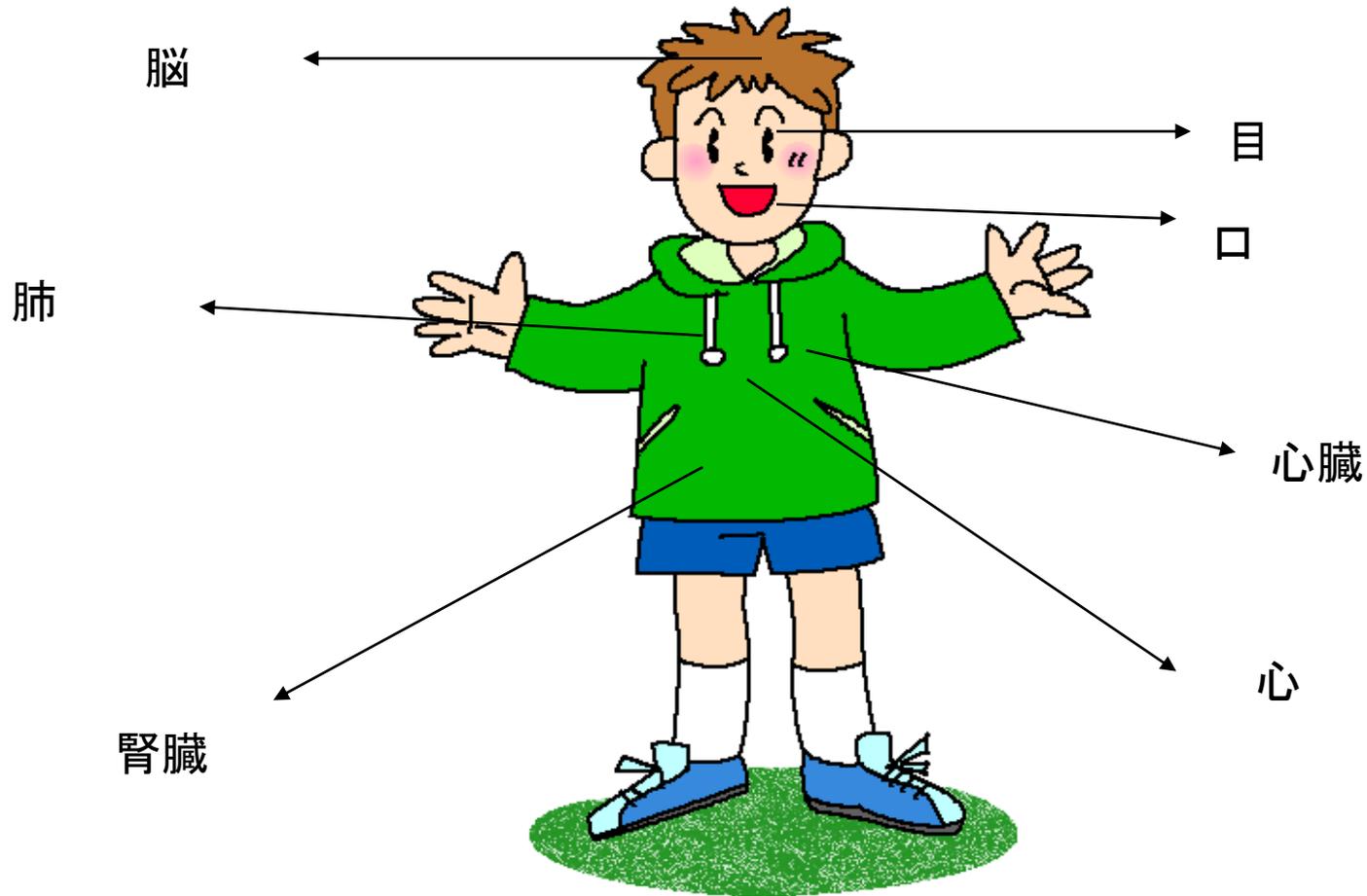
# 藤沢病院診療の特徴-3

- 画像診断
  - 24時間CT,MRI稼働
  - 放射線科医常勤
  - 64列MDCTで冠動脈CT
  - 1.0T MRI
  - 血管造影(DSA)
  - US(静脈、甲状腺、経食道超音波など)
  - PACS
- 内視鏡
  - ダブルバルーンCF
  - 気管支鏡
  - 膀胱鏡

# 藤沢病院診療の特徴-4

- 良好な経営状況
  - 平成6年以外は病院で単年度黒字継続
  - 平成16年病院事業全部適応以後は病院事業全体で黒字を維持
  - 一時藤沢町一般会計に1億6千万の貸付
- 住民・行政との良好な関係
  - 後段で詳述

# 総合医療 空間的広がり



# 包括医療 時間的広がり



医療と医療の前後を考える＝包括医療

患者を歴史的な存在として、過去から未来にかけて考える

自分たちの仕事も地域と相互に影響しあう成長の物語と捉える

# 住民との対話が必要

- 病院が出来て1年後から苦情, 意見が増大
  - 慢性疾患では無診察投薬を認めて欲しい
  - 待ち時間をなくして欲しい
- 私から見た患者・住民のモラル問題
  - 保険診療のルールが知らされていない
  - 診療の基本ルールが守られない
  - 未収が多い
  - 通院中断が多い
  - 役場が運営している病院だから大きな声で要求すればどんな無理も通る

# ナイトスクールの方法

- 時期 農業が忙しくない時期に，年一回
- 場所 町内10カ所から3カ所の集会所で
- 時間 夜7時から9時まで
- 参加 病院事業の各職種と住民
- 見学 研究者，医師，マスコミなど

# ナイトスクール

- 平成6年度から開始
- 参加者は30名から100名
- 無診察投薬をめぐって私から説明
  - 医療法や健康保険のルールに反している
  - 危険な医療である
  - 詐欺でもある
  - 病院の経営に深刻な打撃になる(診察して, 説明して, 検査をして, 指導して初めて収入になる)
- 待ち時間
  - 午後診療, 土曜日の診療, 訪問医療, 予約制導入
- 病院について
  - 住民にとってこそかけがいのないもの
  - 大切につくり育てて欲しい
  - 住民とスタッフの定期的な意見交換が必要

# 住民参加・住民は医療の運営者でもある



# ナイトスクール

- 町内10カ所の地区健康センターを舞台に
- 福祉医療センターの各職種が出向き
- 住民と直接対話を行う
- 患者と住民は同じではない
- 生活習慣を地域で変えよう



# ナイトスクール

- まずは寸劇でアイスブレイキング
- 昼間からの酒を上手に断る方法を身につけよう



# ナイトスクールの成果

- 無診察投薬の要求が激減
- 待ち時間のクレーム減少
- 住民からの寄付増大
- 患者のモラルアップ, 未収金の減少
- 住民の予防意欲の向上



# 意見交換会

- 地域保健・医療の研修が進まない
  - 自治医大と県立磐井病院から1ヶ月間の臨床研修を年に10人以上受けている
  - 外来実習をしたいが、患者が研修医の診察を拒否
- 研修医を地域全体で育て将来の医師確保につなげたい
  - 研修報告会を住民にも公開して、意見交換の場をつくろう

# 意見交換会 方法

- 研修医の研修終了時の研修報告会
- 午後6時から研修報告会と病院事業の活動報告
- 参加者 住民と病院スタッフ
- 報告の後, 意見交換, フィードバック

# 意見交換会風景



# 意見交換会風景



# 意見交換会風景



# 意見交換会の様子

- 第29回となった



# 意見交換会から得たもの

- 研修医の外来実習が円滑にできる
- 研修医を励ましてくれる患者が増えた
- また、来たいという研修医が増えた
- 当直応援、診療応援にその後来てくれる
- 常勤医として2年間来てくれた
- 精神科医として応援診療に来てくれる